

令和七年 師走号

円満寺だより

暑さに堪え忍んだ夏日、熊の出没におびえた秋の日、そんなこんなの日々の中、はや師走を迎えることになりました。時の流れの早さにため息が出ます。

師走。正月を迎える準備だけでなく、一年の区切りをつけるための片付けもあることです。新年という新しい区切りをつけて、喜びを祝うための準備を行う師走でもあります。

祈りで始まる安らかな一年

〜護摩供による加持祈祷〜

真言宗である円満寺では、お正月や縁日、他の行事において、願いが成就するように「護摩祈祷」をお勤めしています。

護摩はインドの言葉で「供物を捧げること」を意味するホーマが語源です。護摩供を勤める導師は真言を唱えつつ、一連の作法をとおして、

ご本尊様を護摩壇の炎の中へとお招きします。このとき護摩壇の炎は単なる炎ではなく、仏様そのものとなります。炎の中にお供物が投げ



られますが、これは仏さまに直接お供物を捧げることを意味します。仏さまはこの供養の心にお応えし、たくさんのご利益をお授けくださることから、護摩供は功德甚大であり、それ故、所願成就の秘法とされるのです。

また、護摩供で焚かれる護摩木は私たちの煩惱を象徴しており、仏さまの炎によって私たちの煩惱が焼き尽くされる意味も込められています。

護摩供は、皆様の願いが込められた護摩札を授かるだけでなく、目の前で焚かれる護摩供の清浄な炎の功德をいただくことによって、さらにそのご利益が増します。

歓喜天にお参りの際は、二度手をたたき、手を合わせ（身密）、「南無大聖歓喜天・なむだいしょう かんきてん」と唱え（口密）、心穏やかに歓喜天様を想って（意密）、願いをお祈りしてください。

令和八年の新しい年が、無病息災で幸多き年でありますよう、歓喜天堂での正月大護摩供修法に参加されますようご案内いたします。
護摩祈祷の申し込みは電話かファックスにてお願いします。

円満寺 0233 22 0433
Fax 0233 22 0166

◆一月一日元旦護摩祈祷時間

午前零時・午前九時・午前十一時
午後一時・午後三時

◆祈祷料

普通祈祷 3,000円
中札 5,000円
大札 10,000円



令和八年厄年表（数え年）

（令和八年迎える満年齢に一歳加えると数え年）

	前 厄	本 厄	後 厄
女性	平成21年 18歳	平成20年 19歳	平成19年 20歳
	平成7年 32歳	平成6年 33歳	平成5年 34歳
	昭和42年 60歳	昭和41年 61歳	昭和40年 62歳
男性	平成15年 24歳	平成14年 25歳	平成13年 26歳
	昭和61年 41歳	昭和60年 42歳	昭和59年 43歳
	昭和42年 60歳	昭和41年 61歳	昭和40年 62歳
幼児	令和6年 3歳	令和5年 4歳	令和4年 5歳

境内整備

新庄開府四〇〇年の記念の年から新たな歩みを進める新庄市。城下の整備に先立ち建立された、新庄藩祈願所円満寺の歴史も四〇一年を迎え、新たな次代を迎えました。

令和七年は、五月に山門両脇のケヤキの枝を、九月にはイチヨウの枝を下ろしました。風で枝が落ちたり、秋は大量の落ち葉が飛んだり、近所にも大変迷惑をかけてきましたが、お陰でその心配がずい分と減りました。

また、雷神堂脇の小稲荷堂を解体し、ご本尊を御蔵稲荷堂に合祀しました。小稲荷堂は、今にも倒れそうになりながら頑張ってきましたが、これ以上雪に耐えられないと判断しました。

それに淡島堂・虚空蔵菩薩堂は、お厨子が納められている奥の院を解体し、少し張り出した下屋に、お厨子を移しました。予想より屋根が大きく移すのにクレーン

車を使い慎重に進めました。お堂の戸を開けるとお厨子が前面に出ていてその迫力が感じられます。このお厨子は、太田の遍



照院に祀られていた淡島宮を遷座したものです。明治維新の廃仏毀釈、神仏分離令により、維持管理が困難となり、円満寺に遷座されました。

さらに、歓喜天堂参道脇の小さな祠が、経年と雪の重みでかなり壊れていたものを、他の祠で整理しました。雪の威力は相当なものです。

令和八年は、淡島堂脇の四国西国板東秩父百八十八ヶ所霊場の石碑を整備する予定です。

円満寺そば

令和七年四月と五月の連休に計六日間、『円満寺そば』を開店しました。初めての企画でしたが、大勢の方々においでいただき、ありがとうございました。「次はいつやるの」の声に押されて、六月、七月の第二日曜・月曜に開店いたしました。またまた、「次はいつやるの」と言われ、十一月一回、十二月三回企画することとなりました。

円満寺そばの大きな目的は、寺の敷居をいくらかでも低くしたいという思いからです。令和八年も何度か企画したいと思っています。



話題

「円満寺そば」産業栽培メディア月刊誌『コロンブス』十二月号に掲載されました。



熊騒動

今年一番取り上げられた話題は、熊とその人的被害です。春から騒ぎ出しましたが、収穫の秋に向かうと各地で、人への攻撃が報告されました。新庄でもあちらこちらでの出沒や新幹線車庫での捕獲と、熊被害が街の中で確認されるようになりました。



国も法律を変えて、訓練を受けた警察官もライフル使用が認められるなど、その対策が大きな問題になっています。様々な要因があげられると思いますが、今夏は雨が降らず猛暑で、茄子やキュウリの生育が遅いとか、作柄が悪いなどの話をよく聞きました。境内のくるみや銀杏も去年の三分の一程度の量でした。きっと山の木の実も少なく、食べ物求めて山から人里に下りてきても不思議ではありません。今年、冬眠するのでしょうか。

甲子大黒天祭護摩供厳修

十一月二十三日は、勤労感謝の日。昔は、秋の収穫を祝う新嘗祭の日。その行事にちなんで、大黒天祭を歓喜天堂にて、正面に大黒天をお祀りして、皆さまの「開運繁昌」「五穀豊穰」「福

寿増長」「息災延命」を祈念いたしました。ご祈祷の後、住職法話では、高齢社会を元気に生きるために必要な事を、八十五歳の現役のお医者様の話として紹介しました。①百メートルを十四秒以内で歩く。②握力、男性二十六キロ、女性十八キロを保つ。③咀嚼力、よく噛んで食べる。この三つを基本として、更に積極的に人と社会と関わっていくことが大切。こうしたことを意識して認知症を予防し、最後まで自立した生活を目指しましょう。昼食会は、住職そばとくるみ餅で。信者さん達からは大変美味しかったとの声を頂きました。

円満寺伝統の「くるみ餅」

皆さんにお出しする「くるみ餅」のくるみあは、境内に一本ある胡桃の木から採ったもので作ります。秋に落ちた胡桃を拾って、皮を腐らせ、皮を除いて、洗って、乾かし、殻を煎って割って、中から身をほじり出し、それをミキサーにかけ（昔はすり鉢）、裏ごしをして、水と混ぜて温め、砂糖と少々塩で味を調え、片栗粉でとろみを付けて餡にします。大変手間のかかる一品です。

どうしたら参加出来るの？

講の方々にご案内を差し上げておりますが、案内がない方でも、参加いただけます。事前

にお電話等で、お申込みください。友人、知人を誘い合わせでの参加も歓迎です。当日、十二時からご祈祷がありますので、それまでにおいでください。その後、昼食会となります。

●会費二千五百円（大黒様のお札、食事、お供物の代金）

●代参千五百円（お礼とお供物）となります。

◆大正大学名誉教授 福田亮成著

『弘法大師 空海のことば』一〇〇 行動と教え（法蔵館）より

「道を学（まな）ぶことは、当（まさ）に衣食の資（すけ）に在（あ）るべし」

「学問をするには、必ず生活費の補助が必要です。」この言葉に続けて、「その道を弘（ひろ）めんと欲（ほ）はば、必ず須（すべ）からくその人に飯（はん）すべし」とも言っておられます。今教育の無料化が叫ばれていますが、お大師さまは千二百年も前に、大きな理想を掲げて、「綜芸種智院式」を発表されました。まさしく教育の無料化ということです。そしてこのような主張は、大変高邁（こうまい）な次の言葉に裏打ちされていました。「物の荒廃（こうまい）は必ず人による。人の消沈は定んで道にあり」と。ここ

にいう「物」を「社会」という言葉に置き換えてみると、よく理解できるのではないでしょうか。道とは仏教の教えと、その実践であることは、言うまでもありません。

さて、その構想とは。

この国には一つの国立大学のみあって、一般庶民の子弟のための学校がなく、遠方に住み学問をしようとする人々は、往來に疲れてしまうことから、綜芸種智院を創建する。また、国立大学での教育は、僧侶は仏典のみの勉強にふけり、秀才の若者は仏教以外の学問にかたより、双方の交流がまったくありません。そのため、綜芸種智院では、それぞれに教える能力のある先生を招聘して教育にあたらせる。というものでした。仏教に基づく総合大学が意図されていたことは注目されなければなりません。

さらに、「その道を弘めんと欲はば、必ず須からくその人の飯すべし。若しは道、若しは俗或は師、或は資、学道に心あらん者には、並に皆給すべし」とあります。弟子の養成については各宗の祖師方が心血をそそいだことであり、お大師さまもそうであったでしょう。しかし、教育の場を世間に解放しようとした意図は、お大師さまのみのものでした。

お見舞い

もうすぐ師走を迎える十一月末、大分の火災で、お寺の屋根が焼け落ちている映像に衝撃を受けました。家を失った皆様に心からお見舞い申し上げますと共に、早々の再建をお祈り申し上げます。また、十二月に入って、市内でも火災があり、お一方が犠牲になられたとのこと、心からお悔やみ申し上げます。



円満寺の恒例年間行事

一月一日

新年護摩祈禱

一月小寒〱節分

寒修行

二月三日

節分星祭り

二月十五日（第三日曜）

歓喜天初縁日

おさいど

三月十七日

お彼岸入り

三月二十日

お彼岸中日

三月二十三日

お彼岸明け

四月八日

花まつり

五月第三日曜

青葉祭り

（弘法大師生誕奉祝）

七月第四日曜

歓喜天夏祭り・花火大会

八月初旬

寺子屋

八月十三日

お盆迎え

八月十六日

お盆送り

九月二十日

お彼岸入り

九月二十三日

お彼岸中日

九月二十六日

お彼岸明け

十一月二十三日

大黒天祭り

円満寺月行事・護摩祈禱

毎月一日 朝七時

十七日 朝七時・午前十時

護摩祈禱はお札の申し込みなしで、どなたでもご参加できます。一緒にお経を唱え、清浄で静寂な時間を共に過ごしましょう。

・写経会（付般若心経を学ぶ会）

毎月十七日 午前十時・午後一時

・心経会

毎月二十一日 夜七時

新庄聖天 円満寺

〒996-0001 新庄市五日町五九一四

電話 0233 (22) 0433 Fax (32) 0166

令和七年十二月二十日発行 発行人 山尾瑛紀